

2033

カーシェアリング専用車の運転席

Cockpit for Carsharing system

AD 40 宮澤 優強
指導教員 杉島 一男

1.研究目的

交通手段の新しいシステムとして「カーシェアリング」という形式が注目されている。環境問題や駐車場不足の緩和を促す良いシステムとされているがレンタカー同様慣れない車を運転するのは操作を間違える等快適な運転を妨げる。そこで違和感なく運転できカーシェアリングをより考慮した車を提案したい。

2.調査と分析

まずCS(カーシェアリング)を行う企業を調査した。その結果ユーザーありきのシステムとわかり研究上の設定として地域は都市部としユーザーは周辺企業のビジネス利用又は個人利用におけるセカンドカーというスタンダードな設定とした。次に車両の実態調査を行った。結果は各メーカー、各車ともに共通点、相違点があった。そこで共通点は今までの慣性を守り、相違点はデザインを変更することにした。またインテリアをデザインする上で専門的な知識を学ぶためインテリアの開発企業を訪ねた。ここでは生産ラインの見学やデザイナーの方とお話ができデザインをする上で大変勉強になった。最後にユーザー調査としてシニア体験を行った。高齢者の方が感じる不快感を身を持って知ることができた。様々な人が共有するシェアリング車においてこうした配慮が多くの人にとっても使い易いものになると考えた。

3.コンセプトの立案

「はじめての人が乗っても違和感なく扱える車のデザイン」

- ・一般性と慣性を十分に配慮したインテリア
- ・UDとして機能性を吟味した運転席

4.デザイン展開

まず車種の設定をした。シェアリング専用車としては、軽が主流である。だがCS先進国である欧米では多様な車種が用意されている。自家用、社用からの転換を考えるとより多目的に使える1000ccクラスの車が良く考えた。また現行の車から省略出

来るものは減らし新たにシェアリング車に固有のものとして走行距離、金額等を表示するレシートを出すためのコピー機を配置した。デザインを行うにあたりハンドリーチや視認角等の重要な点を押さえパネルは体の動きを最小限にするため一つのブロックの中に各要素をまとめた。使用頻度の高いカーナビスイッチ、シフトノブを上面、エアコンスイッチ、コピー機等の使用頻度の低いものを下面に配置した。ナビのスイッチは押し間違いを防ぐため中心を一段高くした。表示系についてはメーターが手やステアリングに隠れないように配置した。ナビとメーターはセンターに配置した。メーターは一般性を考え最も主流であるアナログのものにした。

5.完成図



6.結論

車のインテリアというシビアなものをデザインしその難しさを実感した。検証としては良いという意見とあまり良くないという意見に分かれたがこうした研究に対しCSの企業から喜ばれるなど、やってよかったと思う時もあった。今回の研究で多くの人にCSを知ってもらえたことも重要である。

7.参考文献

調査協力 ウベパレットレンタルシーリング(株)
Calsonic Kansei(株)